

グリーンニュース 第34号

発行年月日 平成 19年 12月 17日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・



(いのちの基盤 水田の保全)

環境政策課からのお知らせ (2ページ)

群馬県の森林保全の現状と課題 (3ページ)

エコスポットの利用は好評(4ページ)

【専門部会】

広めよう菜の花プロジェクト in ぐんま (4ページ)

郷土の自然を守ろう・菜の花畑だより (5ページ)

【地域活動】

前橋緑の会・ぐんま地球市民ネットワーク (6ページ)

太田の地球環境を守る会・伊勢崎くらしの会 (7ページ)

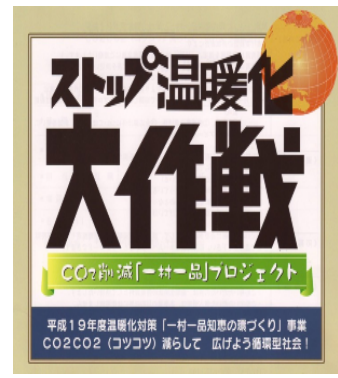
広報ア・ラ・カルト (8ページ)

～平成19年度温暖化対策「一村一品知恵の環(わ)づくり」事業～ 『STOP温暖化大作戦(第1回)』受賞団

優秀賞(団体・個人名/取組の名称、主な取組内容)50音順
後村 美香 / 地球温暖化防止のお話「CO2CO2(コソコソ)くまさん」 小学校低学年向けの温暖化防止啓発絵本。小学校での読み聞かせも行っている
伊勢崎市役所 / てくてくりんりんプラン 職員は各自、車を使用せずに通勤する日を通勤距離に応じた日数分選んで実行し、実績を毎月集計・公開している
伊勢崎市地球温暖化防止地域協議会 / エコドライブ エコドライブを呼びかけ、エコドライブ宣言した人の車にステッカーを貼ってもらう
板鼻グリーンネット / 家庭のごみを減らそう! 地球環境を守るために、自分たちで出来ることを実践し、周りに広めていこう!
実態調査、雑古紙回収や紙ひもの普及、啓発イベント等の開催等を行っている
太田市 / クリーンエネルギーのまちおおた、太田太陽光発電システム導入奨励金 まちぐるみの大規模な太陽光発電システム設置に関する奨励金制度を実施している
片亀 光 / 天の恵みでエアコンいらず 手作り太陽熱温水器、雨水利用、緑のカーテン、省エネグッズ等を活用し、自宅のできるCO2削減を実践している
草津町 / 温水供給事業、道路融雪事業 温泉を活用した、家庭や公共事業での省エネルギー施策をおこなっている
しらさわエコキッズクラブ / 地域における環境教育活動 ごみ削減の実践、ポイ捨て看板作成、環境学習等に取り組んでいる
高崎商工会議所異業種交流研究会 環境ビジネス分科会 / 地球温暖化に貢献する建築物の空気断熱工法の開発 空気断熱工法による省エネルギー住宅を開発・普及している
群馬県立館林高等学校PTA / ケナフの植栽、エコバッグの普及活動、グリーンカーテンの施行 CO2排出量の削減、吸収率の向上に役立つ取り組みを実践している
館林市 / 緑のカーテン、地球に優しい「バイオディーゼル燃料(BDF)」事業、市民一斉気温測定 緑のカーテンモデル事業やコンテスト、公共施設の廃食用油回収、公用ディーゼル車での試験運行等を実施している
NPO 法人利根沼田地域ボランティアセンター / 利根沼田版菜の花プロジェクトBDF燃料で尾瀬バスを走らせよう! 廃食用油を回収・バイオディーゼル燃料(BDF)化し、有機農家のトラクターで使用している。市町村も巻き込んで活動している
マイバッグ・運動推進委員会 / マイバッグキャンペーン レジ袋辞退でたまるスタンプを集めると応募できるキャンペーンを実施している
前橋市教育委員会 / 「グリーンカーテン」～学校で取り組む地球温暖化対策)～ 環境宣言都市として、今年度はすべての学校でグリーンカーテンを実践している

今年発表されたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第4次報告書等でご存知の方も多いかと思いますが、地球温暖化は確実に、しかも残念ながら当初の予想よりも早く進んでおり、CO2をはじめとする温室効果ガスの削減は世界全体で取り組まねばならない急務です。北極の海氷は今夏、観測開始以来の最小面積を記録しましたが、それは遠い世界の絵物語ではなく、私たちの毎日のくらしが密接に関わっています。

温暖化防止につながる取組の知恵を発表し合い、お互いに参考にしよう!という事業が今年から始まり、群馬でも地球温暖化防止活動センターが中心となって県内の団体・個人から取組を募集し、受賞団体・個人が決定し



- ◆応募総数 52件(45団体)
…全国的にみても多い応募数
- ◆優秀賞(14団体)
特別賞(7団体)
※優秀賞のうち伊勢崎市の「てくてくりんりんプラン」は、車の利用が多い本県の特徴をふまえた取組であり、群馬県代表

特別賞(団体・個人名/取組の名称、主な取組内容)50音順
桐生ふるしきの会 / 包む、護る、運ぶ ふるしきの実用性、合理性、ファッション性と合わせて、エコロジーの観点を広めている
菅谷二一 / 太陽エネルギー利用 自作の太陽追尾装置により、太陽熱温水器や太陽電池の効率を向上させている
生活協同組合コープぐんま / 電気ダイエットコンクール 電気使用量のお知らせを送るだけの気軽な参加方法と、削減率により特別賞を贈るなどして啓発している
南橋リサイクルの会 / 交換会 地域ぐるみで年2回、衣類・おもちゃ・日用品・本等の不要品を無料で交換しあう取り組みを実践している
富士見村商工会 / 太陽光発電自立型省エネ街路灯の導入 自然エネルギーを活用して、村を明るくもっと安全にする取り組みを実践している
㈱フレッセイ / マイバスケット持参運動 マイバスケットによるレジ袋削減に、会社全体で率先して取り組んでいる
前橋おやこ劇場&菜の花くらぶネットワーク企画 / お絵かきから地球環境へ、子どもの作ったエコバッグを持って家族で出かけよう こどもが絵を描いたマイバッグを使用することで、レジ袋削減と大人への啓発活動としても取り組んでいる

群馬県の森林保全の現状と課題

…市村県環境森林部長講演報告…

12月1日(土)、県環境アドバイザーの全体研修講演会が、県と共催で市村良平群馬県環境森林部長を迎え、主題のテーマで行われましたので、その内容を報告します。

森林資源の現状・・・県面積の70%が森林・・・

- 1 群馬県の森林面積は424千haで、県全体面積の三分の二を占めている。
- 2 その内訳は、民有林が54%(227千ha)と多く、その民有林の樹木内容は、スギ44%、カラマツ25%と針葉樹が多い。
- 3 森林の木材蓄積量は、20年前の1.5倍と増加している。
- 4 これは、昭和20～30年代の政府の方針で、成長の早い針葉樹を積極的に奨励した為であり、現在使用可能樹木(40年もの中心)は余剰となっている。

問題点・・・森林の荒廃が進行・・・

- 1 森林の民有林所有者は、1ha未満が49千人(68%)で、個人の小規模山地主が多い。また森林所有者には、高齢化と山離れが進行している。
- 2 一方、日本の木材は、安い外国産材に押され需要が減り、国産材の使用比率は18%と減少した結果、流通ルートへの破滅と価格低迷により林業は成り立たない状況になっている。・・・伐採・運び出し費用の方が、売り渡し価格より高くなってしまふ・・・
- 3 加えて、相続税の問題もあり、山を手放したい人が増えている。

森林整備のための地方課税について

- 1 森林整備目的の地方課税は、既に23県が導入済みであり、更に栃木県を含めた3県で実施することが決まっている。
- 2 群馬県での課税は、水の供給面を考え「受益者の都県が負担すべきである」、との県内有識者の意見もあり、現在検討中である。・・・相手先都県の了解は難しい・・・
- 3 仮に、課税が実現しても、民有林所有者の同意を得ることは、山の境界線問題や所有者の承諾等を考えると、困難な問題が多発すると思われる。
- 4 しかし、群馬県も他県の課税・活用方法を参考にして、導入を真剣に検討したい。

鈴木感想まとめ

- 1 現在発生している森林荒廃化の問題は、食料自給率の低下問題と同様、時代の流れの中で発生してしまった全国的な問題であり、深刻な課題である。
- 2 しかしこのまま放置しては、鎬川洪水のような災害が再度発生する恐れがあり、緊急の対応が必要である。またCO2対策、水資源対策からも考えねばならない。
- 3 そのためには、『課税等による財源確保』と公の機関である『国・県・市町村等の手入れが必要』ではないか、との考えに至ったが、皆様のご意見は・・・

(連絡協議会代表 鈴木克彬)

エコスポットの利用は好評

現在販売されているジュースやお茶などの飲料水は種類が豊富で容器も様々です。

皆さんは飲み終わった空き缶、ペットボトルをどうしていますか？

これらは立派な資源となり再利用できますが、資源ごみとして回収されないペットボトルは一般ごみとして焼却されてしまいます。



安中市では空き缶、ペットボトルの自動販売機型回収機「エコスポット」を平成 14 年から市役所・公民館・スーパーなど 18 カ所に設置しています。エコスポットは空き缶・ペットボトル 1 個につき 1 ポイントが加算され、利用者は、所定のカードに 500 ポイント貯めると 400 円の割引券として指定の商店で使用できます。

市民の多くにエコスポットの利用経験があり、好評を得ています。安中市街はポイ捨てが少ないという声もあり、環境美化の一役も担っています。エコスポットは身近な資源を無駄にせず、しかも環境問題として難しく構えることなく、誰でも楽しく続けられる取り組みです。

(安中市 小宮ふみ子)

広めよう菜の花プロジェクトinぐんま

11月10日に、玉村町にて「広めよう菜の花プロジェクトinぐんま」を開催し、約70名の参加がありました。

当日は小雨混じりのあいにくの天候でしたが、午前は、環境リサイクルサポートにおいて、家庭や事業所から集められた廃食油をBDF(バイオ・ディーゼル・フューエル)として車の燃料に使用されるまでの精製行程を理事長の須藤氏より説明を受けました。

午後は玉村町役場を会場に、県新政策課の上石科学技術振興室長より「県内のバイオマスエネルギー事情」について講演、続いて、県内で菜の花の栽培や廃食油の回収をしている9団体の発表があり、また地元の玉村町でBDF使用のバスを運行している永井バスからの発表もありました。

その後、意見交換会として、菜の花栽培や廃食油回収をテーマに話し合いがあり、様々な課題も出てきています。広い土地に菜の花を栽培する場合、農機具が必要となり一般の人だけでは限度があること、土地を借りる場合の農地法の関係、県の助成金のありかた、廃食油回収では自治体をもっと関わるべき等、活発な討論が続きました。甘楽町の人が言っていました「菜の花PJ(プロジェクト)は群馬ではこれまで低調であったが、ここ数年で先進県になりました」確かにそのような気がします。伊勢崎市では市民団体が6月から廃食油の回収を始めましたが、半年もたないうちに行政でも市内全域で回収を始めるといふことで、文字通り市民の声が行政を変えている事例かと思えます。

最後に、このような催しを「ぐんま菜の花サミット」として続けていくことを確認し、来年は北毛開催をお願いし閉会となりました。

(温暖化・エネルギー部会 小川仁司)

郷土の自然を守ろう

先日何とはなしにテレビを点けたら埼玉県川口市・鳩ヶ谷市に流れる旧芝川のことが放映されていました。興味を引かれ見ておりましたらこの川は河川の改修で水の流れが変わり、生活用水が流れ込み、ヘドロで埋まりゴミが捨てられ悪臭が漂い、川の中には魚は勿論生物が生きて行けない最悪の状態であったとの事です。

この現状を何とかしようと住民が立ち上がり、地域をあげて街の人々が大人から小中学生までが協力して、ヘドロを取り除きゴミを片付け、大学の研究室等の先生方と相談し、行政の支援を受け3年間で魚は勿論トンボ、アメンボ等水生動植物が戻ってきて、現在は子供達が水辺で遊び、住民の方々が散歩する姿がドキュメンタリーで放映されておりました。

地域の人々の努力でこんなに大きく変化するものかと大変驚きと同時にやればできるという思いがしました。

私の住む町にも川が流れておりますが相変わらずゴミが捨てられ、ひどいときには家電製品から自転車まで捨てられております。

数年前から一部の区間ですが私達の自然観察と環境を守る会で毎年夏に観察会を行い、その後河川敷の清掃活動を行っております、川は年々水生動物の個体数も増えてきており川が綺麗になって来たように感じられます。

群馬県は水と緑の美しい県です。身近な川と緑をもっと大切に作る心を地域の人々に持ってもらえるよう活動を続けて行ければと思っております。

(自然環境部会 宗 義彦)

体験からの感動！菜の花畑だより

9月の環境アドバイザー会議で「菜の花の種まきがあるので参加しませんか・・・」と誘われ、日程が空いていたので軽い気持ちでOKをした。

当日向かった先は子持山、小野小山と破風山に囲まれたなだらかな中を流れる名久田川沿いの国道145号(別名:日本ロマンチック街道)辺り、地元には広大な山林と農地を所有されておられる高山村の大木さん方の畑(約4000㎡)で、鈴木代表他7名が到着した時には畑は既に耕され畝(うね)が施されていた。

「楽しく作業をしましょう・・・」どなたかの声、半自動の種まき機(中には優良品種キザキの種)で畝を往復する作業を楽しむ(少々苦しくもあり)3時間の貴重な農業体験を終えた。

その日から数えて52日目の11/8どれだけ育ったかを確認しながら、その間の大木さんのお世話/ご苦労にお礼を兼ね

て再び高山村を訪ねた。畔道を迷っていると大木さんに迎えられ現地に着くことが出来た。菜は大きな葉(20~30cm)を伸ばし元気に成長している。大木さん曰く「無農薬で土壌も消毒をしていませんから安心です」、一寸つまんで口にした。畑の中に立つと、土の匂い、伸びゆく菜のみどり、瑞々しい大地、せせらぎの音、爽やかな風、鳥の声、美しい田園・・・、何ともいい知れぬ解放感、「人は本来、自然が好きなんだ」と体験を通して身体全体で感じた。そしてしっかりと足を地に着けてここを生活の場として居られる方のまなざし、生き方には自然に頭が下がった。

(広報部会 宮崎 亮二)





前橋緑の会 地域との連携

昨年は学校ビオトープを使っのネイチャーゲームを開催。PTAのイベントとタイアップし環境アドバイザーの役割を広く知って頂ける日となりました。今年は時期を変えPTA行事の餅つきに合わせてネイチャーゲームを行います。また餅米の古代米を使っておかき作り？も考えています。今年も「はるなネイチャーゲームの会」スタッフの方にもご協力頂きます。

今年も「はるなネイチャーゲームの会」スタッフの方にもご協力頂きます。

古代米の可能性!!3種類の古代米を使っの「おにぎり」をいただきながらの勉強会。味の違いや色の違いなど講師の角田氏の熱いトークにおにぎりが輝いてみえました。また、メンバー特製の豚汁がすべての味を引き立ててくれました。恒例のイベントに定着してきました。参加者の中に高校の先生がおいでになり、学生に古代米を紹介して下さるそうです。実現することを願っています。次世代に繋げるためにも・・・。

<http://www.asakura-es.menet.ed.jp/byotorp/indexh19.html.html>



(前橋緑の会 鈴木 正知)

環境紙芝居ができるまで

「ぐんま地球市民ネットワーク」(染谷正憲代表)の主な活動のひとつに、環境紙芝居制作があります。これまでに扱ったテーマは、温暖化、マイバックキャンペーン、オゾン層と紫外線、森林問題、緑化などがあり、現在制作中の最新作「今日のお弁当」で地産地消を取り上げています。その製作過程をちょっとご紹介しましょう。

まず「地産地消」のような大きなテーマを決めて、全員がそれについて思い浮かぶことをいくつでも紙に書いて出します。それらを分類して、内容の骨組みを作っていきます。それから大筋作りです。基本的に、すべての意見をいったんストーリーの中に入れ込みます。それから、最後のまとめ役が、実際文字にして最初のテキストを作ります。そのあと全員で校正作業をして、テキストを仕上げっていきます。皆で必要なデータ収集をしながら、だいたいの絵柄を考えるとところまでやります。

従来は紙芝居製作ワークショップという形で、会の中でテキストから絵まで皆で作ってきました。ですが、ここ二年は中学校美術部に協力をお願いして、絵を描いてもらっています。今回は渋川の古巻中学校が協力してくれています。この新作紙芝居は、当会が主管する1月13日(日)の環境学習推進事業(13:30～昭和庁舎35会議室)で上演予定です。どうぞ、新作紙芝居を見に来てください。

(ぐんま地球市民ネットワーク 奈賀 由香子)

太田地球環境を守る会の活動紹介

歩いて行けるところにある豊かな緑、水辺、小鳥のさえずり、多様な生き物とのふれあい。深呼吸のできる、さわやかな、おいしい空気。安心して転げまわれる土壌汚染のないランド。ほんのちょっとした小さなことでもいい、地球にやさしい暮らしを、子供たちの未来のために、いまできることから始めませんか。

こんにちは、太田地球環境を守る会です。私たちの会はこのようなキャッチフレーズで、平成16年3月、太田市環境基本計画策定委員会出席者有志で立ち上げました。小さな会ですが、みな地球大好き人間で頑張っております。主な活動は下記のとおりです。

- ・ごみの分別減量説明会(各、行政センター9箇所)…………… H. 16
- ・エコドライブ講習会(行政センター、公民館12箇所)…………… H. 17
- ・夏休み環境学習支援『手作りソーラークッキング指導』…………… H. 18
- ・小学校環境総合学習で『石けん作り』を指導。水について考えるきっかけづくり H.18
- ・群馬県菜の花エコプロジェクトモデル事業参加 …………… H. 18～
- ・廃食油回収(各行政センター、環境フェスティバル会場)…………… H. 17～
- ・廃タイヤ、バッテリー、消火器回収(不法投棄防止対策)…………… H. 18～
- ・県産割り箸で、森林育成の大切さをPR …………… H. 19

(太田地球環境を守る会 松田 敏子)

緑の消費者・グリーンコンシューマー

伊勢崎市の絆の郷交流祭り同時開催・第29回消費生活展にマイバックキャンペーン運動を実施しました。私も群馬県地球温暖化防止活動推進委員の一人として一年間の活動、研修の成果を展示(マイバック)啓発のため、くらしの会の皆さんと消費生活展の会場で啓発資料を渡しながらか呼びかけの実施をしました。



マイバックを使っている…28、6% ときどき使っている…46%
使っていない…13、3%

時々使っているよと答えた方の中には使っていない方が殆ど。使っていないと答えた方の中にはマイバックを知らない方も居ました。このマイバックキャンペーンに対して意識の低い人をどのように自然に巻き込んで実践していくかがこれからの課題ではないかと思えます。それと同時に出来れば家に有るバックや手作りのバックを使うなどを目的にして、スーパーとかで売っているビニールの袋とか(使い捨てよりはましかなと思うが)、わざわざ買うのはどうかなと思ってしまうのは私だけでしょうか？

境町くらしの会の生活教室で作った「マイバック」このバックを作り始めて10年。私達は何時もちこのバックを持って買い物に行きます。最初は関心が無い人達に「万引きバック」などと言われたことも有ります。そう思われるのはとてもいやだなと思いつつもマイバックの意味を投げかけてきました。今、群馬の皆さんの意識が少しずつでもマイバックに向いてきたことはとても良いことだと思います。

(伊勢崎市くらしの会 木島 勝恵)

◎ 今年の総括

石油100ドル(表紙写真関連):投機マネーの流入から石油は需給バランスからの市場価格と乖離して100 \$ / バレルに急騰した。エネルギー関連のコストアップは無論、枯渇懸念の金属資源の価格形成も同期している。地球温暖化に関わる脱化石燃料の一翼としてのバイオ燃料指向へのインパクトも一層強まり、穀物価格へ波及し食糧問題がクローズアップしてきた。日本の自給率、エネルギーと食糧の低さ、とりわけ穀物自給率27%と遺伝子組み換え穀物比率の必然増は「いのちの基盤」の危うさを訴えている。

ヤッパお米だネ・水田の保全を！！

ノーベル賞:地球環境への活動功績に対し、アル・ゴア元米国副大統領とIPCCがノーベル賞の栄に浴したことは環境問題に取り組む人にとっては励みになります。ゴア氏による映画「不都合な真実」は県内でも上映されたので、多くの方がそれに接しられたことと思います。IPCCの第4次報告は6年前の予測値を超えたことで年初から衝撃的に取上げられ、共に地球温暖化現象の加速を警鐘しています。それらを学び活動の糧にしましょう。

◎ 「不可解な事実」

不可解な事実の列挙、例えば①リサイクル・再資源化のために分別回収したプラスチック類はどのように処理されているのか事実を確かめたことがありますか？殆どが焼却処分されている様です。熱エネルギーに変換も再資源化？②飲料用空き缶のプルタブ回収・収集の有効性？経産省のパンフ(なつく、知つく3R)にはプルタブを取らずに回収するよう働きかけています。環境負荷を減らすにはどちらが良いだろうか？事例のような不可解な環境問題を広報部宛てお寄せください。

◎ 環境アドバイザーの歌:「私たちの街をつくろう」

2007年7月の総会時にシンガーソングライター羽鳥准雄さん(前橋)が披露。既にCDに収められ、ホームページにも掲載を準備中です。



今後の行事予定並びに行事報告はインターネット・ホームページ「ぐんま環境アドバイザーネット」

<http://gadviser.hp.infoseek.co.jp> に適時、掲載されています。

行事予定・報告等の掲載を要望される方は下記の E-MAIL アドレスに連絡ください。

gadviser@infoseek.jp または nmrt@nifty.com

「グリーンニュース」のバックナンバーもホームページでご覧になれます。